

カリキュラム

機構施設名： 静岡職業能力開発促進センター

実施機関名： 合同会社ヤオヨロズテック

26-22-12-090-078

A. バックオフィス	090 失敗しない社内システム導入
システム導入	

コースのねらい	業務をシステム化する上で、必要となるシステム構築の流れやユーザー視点におけるシステム化に必要な知識を理解する。
---------	---

		「基本項目」	「主な内容」	訓練時間 (H)	日 程	
					月 日	時刻
講義内容	1	業務とシステム	(1)DXとは ・企業運営で避けては通れないDX(デジタル・トランスフォーメーション)の背景とその必要性を考察する。DX時代の具体的なITツール(ERP、グループウェア、RPA、BIツールなど)とその課題について解説。	0.5	令和8年 10月20日(火)	9:30~16:30 昼休憩 11:45~12:45
			(2)システムの導入目的 ・企業によってシステム導入の目的は多種多様ですが、システム導入に失敗する理由の1つに「目的を見失った手段の選択」があり、導入目的の重要性を解説する。 【演習】 システム導入目的の明確化。	0.5		
			(3)システムの種類+RPA概要 ・業務を円滑に行うためのシステムには、基幹業務システムと情報系システムの2つに大きく分けられ、具体的にERP(EnterpriseResourcePlanning)などがどのようなシステムの種類なのかを解説する。 ・近年注目されるデータ入力や情報チェックなどのホワイトカラーの間接業務を自動化や効率化し、生産性を向上させるテクノロジーRPAの機能の概要について説明。	0.5		
			(4)システムの要件 ・システムの導入あたって、大前提となる「システムに何を求めているのか」を具体的にする要件定義について説明する。 ・要件としては、機能面、予算、導入タイミング、緊急度、運用、カスタマイズ性、業務改善点などがあり、導入に失敗しないためのポイントを解説する。 【演習】 システム要件策定	0.5		
	2	開発手順とユーザーの役割	(1)システム開発の手順 ・システム開発の進め方には「ウォーターフォール型」「プロトタイプ型」「スパイラル型」「アジャイル型」と4つの開発手法があり、それぞれの手法のメリット、デメリットと開発の手順のポイントを解説する。	0.5		
			(2)ユーザーと開発ベンダーの役割 ・システム開発において、押さえておかないといけないユーザーと開発ベンダーの役割および立ち位置を解説する。そして、開発をスムーズに進めるためには開発ベンダーの役割を知っておくことが重要であることを押さえる。	0.5		
			(3)要求定義の重要性 ・システム開発の大前提となる要件定義は開発の屋台骨であり、万が一、要件定義が不足している場合には、開発途中での要件追加や修正、変更が起こり、開発コスト増加や開発の長期化など大きな影響があり、その重要性を理解する。	1.0		
			(4)要件定義の難しさ ・システム導入の目的を実現できるかを左右する要件定義は、実装すべき機能や満たすべき性能を明確にしていく作業のことであり、ユーザーと開発ベンダーの両方の視点で考え、検討していくことの難しさを理解し、検討のポイントを習得する。 【演習】 要求定義の策定	0.5		
	3	システムのコスト	(1)コストの考え方(開発経費、運用経費、改修経費等) ・システムのコストには、導入時にかかるイニシャルコスト(初期費用)と使い続けるためにかかるランニングコストの2つがあり、目的に合わせたコスト設計と導入後の投資対効果の考え方をレクチャーし、自社で実行できるようポイントを押さえる。	0.5		
			(2)開発工数による積算 ・要件定義で明確にした実装すべき機能や満たすべき性能からシステム開発の作業が決定する。それらの作業ごとに工数を積み上げることでシステム開発の見積もりが確定することを解説し、システム開発コストの判断のポイントを押さえる。	0.5		
			(3)システム種別によるコスト比較 ・IT化が進んだ現代の業務システムは数多くあり、その種類別に目安となるコスト比較および違いを解説する。 ・どのシステムが自社に最適であるかの判断ポイントを理解し、導入の企画・提案ができるスキルを習得する。 【演習】 課題と導入システムの検討演習	0.5		

カリキュラム作成のポイント

・働く環境の変化や日本の現状、活用できるITテクノロジー、DXの最新動向を理解した上で、身近な課題と照らし合わせながらIT活用するための知識習得を図ります。一方的な知識ではなく、双方向や演習を通じて、現場で実践活用できるようになるための演習を挟みます。

・具体的には、基本的なDXリテラシーをイメージしやすいように事例や実体験を用いて解説し、演習と講師からの質問をすることで受講者の理解状況を把握して進め、解説については専門用語は多用せず、分かりやすい例えを使い理解を促します。

・データ連携に活用できるITツール(ChatGPT、RPAツールなど)をその場で仕様や使い方を表示して実際の動きを見せたり、低コストでリスクリングに使えるサービスなど活用できるツールを即実践できるように紹介します。